

「白山中宮長瀧寺の僧坊・経聞坊」

きょう まん ぼう

今年の白山開山1300年祭の関連特集として、毎号、市内の博物館の特別展示をご紹介します。今回は、近日に開催する白山文化博物館の特別展「白山中宮長瀧寺を支えた僧坊」のみどころをご紹介します。

■鎌倉・室町時代に全盛期を迎えた白山中宮長瀧寺

「白山目指す美濃馬場」

みなさんご存知「郡上かるた」

の読み札の一句です。美濃馬場は今の白鳥町長滝のことです。かつての白山参りで栄えた所で、1300年前に奈良時代の高僧・泰澄大師が白山へ登る道を開いた時に、ここに白山中宮長瀧寺を開いたのが始まりといわれています。

平安時代になると、天台宗延暦寺の別院となつて勢力を増し、鎌倉・室町時代には宗教文化が花開きました。当時の様子は、六谷六院に社寺三十余りが

並び建ち、一山の衆徒は三百六十坊にも及んだと伝えていきます。

■長滝の経聞坊

経聞坊はかつての白山中宮長瀧寺の僧坊の一つで、養老3年(719)に開かれたと伝える古刹です。一般公開をされていないので知らない人もおられると思いますが、中世の社寺史料をたくさん今に伝えていて、歴史家にはよく知られた寺坊です。というのも、白山中宮長瀧寺は残念ながら鎌倉時代と明治時代の二度の大火で多くの文書を失いました。むしろその僧坊

の経聞坊が、鎌倉時代からの文書を伝えていきます。

しかし、経聞坊にとっても平和な時代ばかりでなく、とくに16世紀の戦国争乱は厳しい時代でした。白山中宮長瀧寺は主な収入源だった飛騨の寺領を奪われ、争乱で建物は破損し、衆徒は方々へ退転しました。経聞坊をはじめとするいくつかの僧坊の衆徒も、この時期に牢人をしていきます。江戸時代に入つて平穏になると長滝に戻る衆徒もありましたが、江戸時代の中頃は十四坊に減りました。

今は、花奪い祭りで有名な長滝白山神社、阿名院や宝幢坊など、これらの出展品から、白山中宮長瀧寺の活動に僧坊が果たした役割や、寺院で行われていた法会、各地の檀那場回りの活動などの白山中宮長瀧寺一山の特色的な姿をご紹介します。

■出展品のご紹介

今回の特別展では、経聞坊に伝わる仏画や経巻、古文書などを中心に展示します。いずれもかつての白山中宮長瀧寺と衆徒の様子を知る貴重な史料ばかりで、ほとんどが初公開の出展品です。



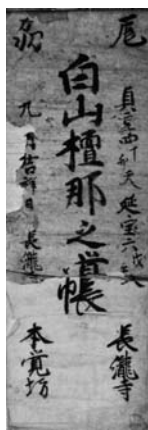
▲延暦寺創建の天台宗の開祖・伝教大師(長滝・経聞坊蔵)



▲江戸時代末期の白山中宮長瀧寺の堂社(長滝・若宮家蔵)



▲歴代皇室から白山中宮長瀧寺への勅納物を記す(長滝・経聞坊蔵)



▶尾張国の布施を集める檀那場帳(長滝・経聞坊蔵)



～白山開山1300年特別展のご案内～

第3回「白山中宮長瀧寺を支えた僧坊」

会 期 11月22日(水)～平成30年2月19日(月)※火曜日休館
時 間 午前9時～午後4時30分(入館は午後4時まで)
会 場 白山文化博物館(白鳥町長滝402)
入館料 大人310円 小中学生100円
お問い合わせ 白山文化博物館(☎85-2663)
教育委員会社会教育課(☎67-1128)